

大学教育研究センター全学 FD 事業

第21回大学教育研究セミナー(5月12日研究員会議終了後開催)
大学入試改革の動向と今後の課題

センターの研究員による調査結果の報告およびセンター研究員間での意見交換の場として、今年度も大学教育研究セミナーを開催します。

第21回目の今回は、センターの大久保敦専任研究員から、大学入試改革の動向と今後の課題について報告を行っていただきます。

昨年度の第18～20回のセミナーと同様、5月の大学教育研究センター研究員会議の終了後に、センターの研究員および事務職員の方々を対象に開催いたします。お忙しいなかではありますが、センターの教職員の方々は、ふるってご参加いただければと存じます。

「第21回大学教育研究セミナー」

日 時:2017年5月12日(金) 研究員会議終了後(11:10頃)～12:10

場 所:全学共通教育棟2階会議室

テーマ:

「大学入試改革の動向と今後の課題」

【センター研究員による研究成果報告】

発表者(兼企画担当):大久保敦 大学教育研究センター副所長・教授

平成26年12月22日の中央教育審議会答申に沿って、大学入試改革が進行しています。その内容は平成32年度からの新テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入と個別大学の入学者選抜の改革からなるものです。このような大幅な改革は共通第1次学力試験、それに続く大学入試センター試験導入以後初めてであり、今後の高校教育や大学教育にも大きく影響を与えることが予想されます。

そこで今回のセミナーでは、文部科学省による大学入試改革の動向、入試を取り巻く社会情勢(戦後の進学構造)の変化、入試における内部質保証(認証評価)、本学への志願者の動向、入学後の学生の状況、さらに入試における費用対効果やAO入試先行大学からの教訓をふまえて、大学入試改革の今後の課題を参加者の皆様とともに考えたいと思います。

(運営担当:飯吉)

以 上